

## 第5回-I：「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会で上智大学ができること：医療・看護・福祉・介護分野における多言語対応情報提供システム構築を目指した人的・組織的ネットワークの構築とシステムの概念設計」

○研究代表者 理工学部情報理工学科 教授 高岡 詠子

○研究メンバー (教員6名×職員1名)

神学部神学科 教授 2名／総合人間科学部社会福祉学科 教授／総合人間科学部看護学科 教授／外国語学部ロシア語学科 准教授／国際教養学科国際教養学部 准教授／学術情報局研究推進センター

○研究テーマについて

2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会も立ち上がっているが、やはり観光向けや案内、一般の翻訳が多い。実際に外国人が日本に来たときに、病人、要介護者、障害者の方々とのコミュニケーションが非常に重要になってくることは言うまでもない。

日本における医師や看護師、介護福祉士、社会福祉士・精神保健福祉士等福祉に携わる方々、さらには専門性のあるボランティアが外国人の方とスムーズにコミュニケーションをとるための支援をすることを目的とし、上智大学に存在する社会福祉学科、看護学科、情報理工学科という学際的な視点から医療・看護・福祉・介護に焦点を当てた多言語対応情報提供システムの構築を目指したネットワークの構築とシステムの概念設計を行う。

○研究内容

- ・上記研究テーマの遂行に必要な学内外の人的・組織的ネットワークを構築。
- ・システムの概要設計を行う。その際、既存ソフトウェアとの相違点の検証とモックアップの試用から得られた課題・問題点を明らかにした。

## 第5回-II：「上智大学フューチャー・センターを持続可能な組織とする方法の研究

—基盤強化と学内組織化の検討—

○研究代表者 経済学部経済学科・教授 川西 諭

○研究メンバー (教員1名×職員7名)

総合人間科学部看護学科 助手／監査室 主幹／総務局経営企画グループ／財務局経理グループ／財務局管財グループ／学事局学事センター 主幹／神学部事務室／理工学部事務室

○研究テーマについて

第3回、第4回教職協働イノベーション研究の成果として、フューチャーセッション（教職員、学生、卒業生、そして学外者など多くのステークホルダーが未来志向で課題解決を話し合うワークショップ）の有効性と必要性が確かめられ、教職員、学生、卒業生のボランティアメンバーから構成される組織としての運営に見通しが見えてきたが、上智大学フューチャーセンターがその目的である大学内外の課題解決に効果的に貢献しつづけていくためには、組織運営、イベント企画運営の知識と技能を持つ人材を育成し、組織の基盤強化を図る必要がある。また、上智大学の公式の学内組織となることで認知や活動の幅を広げることが可能となると期待される。

○研究内容

- ・メンバーの育成のために、学生主体で運営を行うワークショップを2つ、ファシリテーション技術、ワークショップ企画、運営能力を高めるための、研修ワークショップを開催。
- ・学内外の協力ネットワークの構築のために、株式会社岡村製作所や、大日本印刷株式会社との連携活動を開始。
- ・「組織の壁や立場の違いを超えた未来志向の対話の場づくりの推進」を目的とし、学内組織化に向けて具体的に検討。

## 第5回-III：「福祉専門職を目指す学生と地域住民の連携による ” ケアフェス ”

協働運営学習プログラムの検討 ～地域包括ケア時代に必要な連携力を養うために～

○研究代表者 上智社会福祉専門学校 教員 三浦 虎彦

○研究メンバー (教員1名×職員4名)

上智社会福祉専門学校 教員／総務局ソフィア連携室／学事局学事センター／生命倫理研究所／上智社会福祉専門学校事務センター

#### ○研究テーマについて

学生が地域住民と連携しながら「当事者の視点」を理解し、将来的に専門職として福祉にニーズを持つ当事者や地域住民との連携力を養うために四谷キャンパス内で「ケアフェス 2015」（地域住民と学生の共同企画）を開催し、その成果を検証することで、より効果的な学習プログラムを構築することを目的とする。

#### ○研究内容

- ・学生が当事者の視点を学ぶ機会として、地域活動を行う団体の協力を得て、学生が参加する機会を提供。（通称「上智レンコンプログラム」）
- ・ケアフェスを体験した学生及び、ケアフェス実行委員会の構成メンバーである地域住民へのグループインタビューを通じて、ケアフェスの実施と上智レンコンプログラムの効果や今後の課題に関する仮説を提示。

### 第5回-IV：「上智大学の特色を活かした2019年ラグビーワールドカップおよび2020年東京オリンピック・パラリンピックの支援とグローバル人材育成との連携の具体化」

○研究代表者 文学部保健体育研究室 教授 師岡 文男

○研究メンバー（教員6名×職員4名）

文学部新聞学科 教授／文学部保健体育研究室 教授／法学部法律学科 教授／外国語学部英語学科 准教授／外国語学部イ  
スパニア語学科 教授／短期大学部英語科 教授／人事局人材開発グループ2名／学生局学生センター／学術情報局研究推進  
センター

#### ○研究テーマについて

2019年ラグビーワールドカップと2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を成功させるために上智大学は何をできるかを教育・研究・施設など多面的にわたる、より具体的な企画書を作成する。また、2つの国際的メガスポーツイベントを上智大学のグローバル人材育成を活かす場ととらえ、連携させていく具体的な施策を提案する。

#### ○研究内容

- ・上智大学公開講座2015年度春期教養・実務講座として「オリ・パラ、ラグビー、マスターズ支援者基礎教養講座 -2019～2021の国際メガスポーツイベント支援希望者のための基礎知識学習-」を開講。
- ・それぞれの国際メガスポーツイベントを成功させるために、上智大学ができることを具体的な支援策として提案。

### 第5回-V：「都市型大学におけるキャンパス施設・設備の運用・管理手法（施設マネジメント）の構築」

○研究代表者 財務局管財グループ 原 政孝

○研究メンバー（教員3名×職員3名）

理工学部物質生命理工学科 准教授／理工学部機能創造理工学科 教授2名／財務局管財グループ／学術情報局研究推進センター

#### ○研究テーマについて

本学四谷キャンパスは都心部に位置し、かつほぼ全学部学科が1ヶ所に集約されていることから、立地上の利便性の良さのみならず、研究成果の共有や学内外への受発信において優位性を持っている。しかし、その反面、都心部に所在するが故にスペース（拡張の余地等）に制限があることは否応無く、この有限なスペースを効率良く整備・維持・運営管理することが必須であるため、主に施設設備の側面から、これを推進・発展させる手法・体制について検討する。

#### ○研究内容

- ・本学の特質、実状について調査・把握、分析・客観評価し、見える化（共有化）した。
- ・施設マネジメント手法についてカスタマイズ・ローカライズを施し、適切な手法を開発・提案。

### 第5回-VI：「2020年パラリンピックに向けた機運と環境づくり及び人材育成にかかわるワークショップの開催と大会運営をサポートするボランティア人材養成講座の企画開発」

○研究代表者 上智社会福祉専門学校 教員 岩崎 雅美

○研究メンバー（教員5名×職員2名）

神学部神学科 教授／総合人間科学部心理学科 教授／上智社会福祉専門学校 教員／総務局経営企画グループ／総務局広報グループ

○研究テーマについて

2020年のパラリンピックの開催に向けて、障がいスポーツの振興から子どもと高齢者を含めたあらゆる世代がスポーツを楽しむを実感できる社会の構築のためには、社会環境の整備と共に活動をサポートするボランティアの参加が不可欠となるため、環境づくり及び人材育成にかかわる取り組みを実施する。

○研究内容

- ・パラリンピックに向けて、学内環境のバリアフリー化の進行状況を確認するワークショップを実施。
- ・選手・役員の子どもの預かるボランティア（保育士）の養成講座をテストケースとして開催。

**第5回-VII：「大学を核とした未踏高齢社会を支えるCreative Class Community醸成の試みに関する調査研究」**

○研究代表者 理工学部情報理工学科 准教授 矢入 郁子

○研究メンバー（教員4名×職員2名）

上智大学名誉教授／理工学部機能創造理工学科 教授／理工学部情報理工学科 教授／非常勤講師／総務局総務グループ／学術情報局研究推進センター

○研究テーマについて

2020年の東京オリンピック・パラリンピックのイベントを一つの成果デモの舞台と見据えながら、その後に到来する人類未踏の高井高齢率を迎える日本社会に向け、千代田区在住・在勤の障害者・高齢者が、本学学生や大学に集う研究者・開発者とともに、障害や加齢に配慮した町づくり、新サービス・機器の提案など、様々なイノベーションを生み出す大学・市民・企業・自治体間の相互支援ネットワーク実現の可能性を探る。

○研究内容

- ・人的ネットワーク構築を試み、「インクルーシブデザインワークショップ」、「第2回 Sophia Summer Hackathon」の2つのイベントを開催した。
- ・大学・公的機関を中心とした人的ネットワーク構築活動事例の調査研究。
- ・本学の強みを生かし、学内組織・職員・教員、在校生、同窓会と連携した活動の提案。

以上

※研究代表者・メンバーの所属、職名等は研究報告当時のものになります。